

## 第5学年 組 国語科学習指導案

日 時：平成17年10月7日(金) 5校時  
場 所：5年 組教室  
授業者：谷口 昌生

- 1 単元名 伝え合って考えよう
- 2 教材名 人と「もの」との付き合い方
- 3 指導にあたって

### (1) 教材について

5・6年生において、「話すこと 聞くこと」を学習指導要領では、

#### 目標

目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てる。

#### 内容

話すこと聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

- ア 考えた事や自分の意図が分かるように話の組み立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。
- イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。
- ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

と記してある。

昨年度子どもたちは、奉仕活動として、運動場のゴミ拾いに取り組み、さらに社会科の学習において、資源リサイクルセンターの見学を通して、ゴミの量や処理の仕方について学んできている。また、地球規模の環境問題についても、テレビなどの情報を通して、多少なりとも理解している。

環境問題は、おそらく児童が生涯にわたって取り組まねばならない課題である。だからこそ、理科・社会科・総合的な学習の時間など、学校教育のさまざまな分野で扱っている。しかし扱い方が画一的になっていると、同じことを何度も繰り返すことになり、最初の驚きも失ってしまうことになる。大事な問題であるだけに、六年間を見渡して、教科の特性を考えながら、どこで、どう扱うかを考える必要がある。

この単元では、「ごみ」は、人が作り出すものであるということ、ごみという「言葉」の切り口から考えている。調べて発表する活動においては、技能をしっかりと指導するようにしたい。特に「聞く」に焦点をあて、仲間の発表を聞くことで自己内対話をし、自分の考えを深めさせていきたい。

問題を、知識・情報として受け入れるだけでなく、いかに自分の問題にしていくかが、課題解決力をつけていくための大切な要素となってくる。

### (2) 児童の実態

話すことに関して、個人差があり、大変消極的で、人前で意欲的に話そうとする姿が見られない子がいる。毎日の生活の中で一部の子たちに遠慮したり、押されがちで自分の意見がいえぬ。かといって、その一部の子たちが、論理立てて、はっきり話ができるかという点と全くその反対である。自分勝手な話のみでルールがまもられていない面も見られる。

仲間の意見を大切に、ルールのある中で話をさせる、そんなことを徹底させなければと日々奮闘中。クラス全体を見れば、おとなしい子たちも一部の子たちに押されながらも自分の意見をしっかりと持ち、文に表すことはできる。(言えないから書くのかもしれないが)学力的にも個人差は少ない。つまり、考えを持てる、そのあとの表出方法さえしっかり保障していけば、きっと話し合いは活発に行えると信じている。が、問題は一部の子たちの指導なのだ。正しい意見を主張しても、高学年という時期、仲間の意見が絶対になりつつある。指導の必要な子を直接的に変えようと思うより、まずは周りを固めていく。周りに自信を持たせる。とにかく周りの一人一人に考え方を一部の子たちに流されない、正しいこと、特に、仲間に対する見方に思いやりをもって接することを訴え続けてきた。(消極的で、受け身的な児童の実態をこの教材を通して、話し合いのルールを確認させ、話すための内容、論理的な根拠を持たせることによって、意欲的に表現する子の育成に努めていきたい。

観点別に児童の実態をとらえてみると、

#### 国語への関心・意欲・態度

みんなの前で話したいという気持ちはどの児童にもあるが、実際に人前で堂々と自分の意見を話せる子とそうでない子の差は大きい。意欲があっても自信のない児童や人前で話すことに慣れていない児童は声が小さくなったり、最後まできちんと自分の意見を伝えることができなかつたりする。しかし、今まで学習してきた話型を使って、発言しようとしたり、前の発言者につなげて発言をしようとしたりすることができる子もいる。相手の話を最後まで聞く姿勢を保って聞こうとする態度は身に付いている。

#### 話す・聞く力について

その場に応じて、声の大きさを変えたり、速さを変えたりして、話そうとすることができる児童が多いが、発言自体は息の長いものではない。また自分の意図を十分に相手に伝えることがなかなかできない。自分の考えや伝えたいことはあるが、それを相手に伝えるためにはどうしたらよいか分からない。また、自分自身が分かっていることは相手も分かっているに違いないと考えてしまいがちで説明不足になってしまうことも多いといった実態がある。

話し合いの中での短い発言についてはよく聞き取り、自分の意見と比べながら聞くことができるが、長い文章の中で大切なことを、必要なことを押さえながら聞く力が弱い。

#### 言葉についての知識・理解・技能

児童は日常の生活の中で、児童自身が敬語を使う場面が非常に少ない。また、敬語を使う場面に出会ったとしても、適切に敬語を使うことは難しい。1学期に敬語を学習したので、敬語とはこのような場面に使われる、こんな言葉だなといった感覚的な知識はある。聞けば分かるが、実際に自分が適切に使うことは難しい。今回の学習を通じて、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れ、日常の言語生活の中で自然に敬語を使うことができるようになればよいと考えている。

### (3) 指導の立場

教科書68ページに「次の資料を読んで、ごみ問題や人と『もの』との付き合い方について考えてみましょう。」とある。また、ここでの指導内容は、「必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること」である。したがって、児童には、前述の部分を「読みのめあて」として強く強調させ、目的をもって情報を得るための読み方をさせる。読みのめあてを具体的にすると、例えば、

- ・ ごみ問題の何が書かれているのだろう。
- ・ 筆者は、ごみ問題についてどのような考えをもっているのだろう。
- ・ 「人と『もの』との付き合い方」について、どのようなことが書かれているのだろう。
- ・ 筆者は、「人と『もの』との付き合い方」について、どのような考え方も持っているのだろう。

が挙げられる。このめあてを、児童自身の考えにつなげなければならないということを、読む前に指導したい。

資料「ごみ問題ってなあに」について、筆者が、「ごみ問題」を考えるにあたって、「ごみ」とは何かから述べている。これは、課題追究の一つの方法である。筆者は、「ごみ」の問題は、「人と『もの』とのかわり」の問題であるという視点をもつ。このことを児童それぞれがどのように考えるか促したい。

また、ごみを出さない社会、すなわち物を大切にす社会の例を挙げ、その知恵に学ぼうと提案している。そのような社会には、自然と共生する豊かさ、創造する喜びがあると筆者は述べている。このことについて、児童それぞれが自分の考えをもてるようにさせたい。

そこで、児童の実態、後述の研究の関わり(話すこと)をふまえた上で、発表会形式を取り入れた話し合い活動を仕組んでいく。

#### 発表会について

ごみ問題について調べたことを根拠に話すことができる、且つ子どもの興味関心をひくもの、討論会のように賛成反対がはっきりしているものではなく、自分が調べたことのまとめを広めていく活動にしていきたいと思っている。例えば、「家や学校のごみ調べ」「ごみを減らすためのアイデア」「再利用への道」「昔の暮らし」「物の来歴」などが考えられる。また例えば「生活するには、50年位前より今がよい。」というような比較しながら発表する形式も考えられる。アンケートやインタビューなど目的にあった調査方法や内容を考えていきたい。

その理由：児童は、「昔がよい。論題には、反対。今は環境破壊が進んでいるから。」が多数と予想する。しかし、今の便利さが捨てられるか。そこで、現在を生きる自分たちが、環境問題をかかえながら、今できるについて調べたことを提案できるとさらによい考える。

現在を生きる私たちに今できることを考える必要性があることに気付かせる。そして、今の生活を見つめ、改め、地球環境（ごみ問題）を解決するためにできることを具体的に提案させていきたい。

#### （４） 研究主題に関わって

研究主題「意欲をもち、相手に伝わるように、自分の思いや考えを表現する能力の育成」  
～話す・聞く領域を中心とした国語科学習～

##### 研究内容1「単元づくり工夫」

子どもの実態と指導内容をふまえ、評価規準を位置づけた単元指導計画を作成する。（別紙参照）

単元の出口（自分の課題やそれに対する考え、仲間の発表を聞いて考えが深まったことなどを整理して、自分の生活を見つめ直して文章を書くことができる。）を明確にした単元指導計画を作成する。そのために、児童の意識（こんな学習をしていきたい）を大切に、付けたい力（評価規準）を明確にしていく。

子どもにとってより目的意識をもった学習課題を設定する方法を具体化する。

身近に起きている環境問題（ごみ問題）について、4年生の社会科で学習したことを基に一人ひとりがそれぞれ興味・関心をもって、「もの」との付き合い方について考えていくためには、ごみ問題という大きなテーマから個人テーマにおおして調べ学習を進めていきたい。モデル学習で学んだ話し方・聞き方を、小グループで共有し、お互い考えを広め深めていくことが伝え合うための大切な方法であると考え。

##### 研究内容2「学習活動と指導・援助の工夫」

付けたい力と子どもの実態に応じた学習形態を工夫する。

一人ひとりが自分なりの話し方をよりより高めていくことを考えると、個人の調べ学習を通して、仲間に伝えていくことが必要であると考え。しかし、大勢の前ではなかなか自信をもって話せない実態を考えると、グループに分かれての少人数での発表会（伝え合い）を行うことを前提に話す練習に取り組むことで、自信をもって話すことができるようになる考える。

子どものつまづきに応じた指導・援助を具体化する。

自分が調べ考えたことと、仲間が調べ考えたことを照らし合わせるには、聞く力をつける必要がある。発表者が何を調べ、調べて分かったことと考えたことは何かを聞き取ることや、自分の考えと同じところはあるか、違うところはあるかをはっきりさせる。そのためには、ただメモを取るだけでなく、提示された資料の観察も必要になることを押さえる。

##### 研究内容3「仲間のよさや自己の高まりに気づく評価の在り方」

自己評価の場と方法の在り方を具体化する。

仲間の学びの良さに気付く相互評価の在り方を具体化する。

よりよい話し方をするための必要な条件を話し合い、自己評価、相互評価の観点を設定する。観点ごとに自分の発表を振り返るようにしたり、自分ががんばりたい目当てをはっきりさせたりする。5年生の「話すこと」では、組み立ての工夫、資料の提示の仕方その他、言語事項として「声量、速さ、視線、抑揚、話しかけるような言い方、表情、言葉遣い」がある。児童とともに観点を設定し、お互い高まりあえる評価をしていきたい。

#### 4 単元の目標

「ごみ問題ってなあに」をきっかけに、自分なりに課題をもって調べ、発表して交流し、まとめようとして書くことを通じて、自分の生活の中での「もの」との付き合い方を見直すことができる。

「ごみ問題」について調べた内容や感想が、クラスの友だちに分かりやすく伝わるように、組み立てを工夫して話す。（話す力）

発表者の考えと自分の考えとを照らし合わせ、話題のとらえ方の違いや共通点を明確にしながらかく。（聞く力）

自分の考えと他の考えとを対比しながら文章全体を組み立てる。（書く力）

自分の体験や知識と自分が考えた意見を区別して書く。（書く力）

自分の考えを明確にするために、必要な箇所を読む。（読む力）

## 5 単元の評価規準

ア 国語への関心・ 意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 読む・書く能力	エ 言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分と「もの」との付き合い方を見つめ直し、活動を通して考えをふかめようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の課題について調べた内容や感想が仲間に分かりやすく伝わるように、組み立てを工夫して話している。</li> <li>・ 発表者の考えと自分の考えとを照らし合わせ、話題のとらえ方の違いや共通点を明確にしながら聞いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えを明確にするために、必要な箇所を読んでいる。</li> <li>・ 自分の考えと他の考えとを対比しながら文章全体を組み立てる。</li> <li>・ 自分の体験や知識と自分が考えた意見とを区別して書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲間の考えと比べながら自分の考えを明確にし、文章全体の組み立ての効果を考え、事実と感想・意見を区別して書いている。</li> </ul>

## 6 単元の5つの言語意識

相手意識	目的意識	場面・状況意識	方法意識	評価意識
学級の仲間	ごみ問題（環境問題）について資料を収集して自分なりの考えをまとめ、伝える。	資料「ごみ問題ってなあに」を通して、人と「もの」との付き合い方について、自分の生活を振り返る。	テーマにそって、話の組み立てや話し方を工夫したり、共通点や相違点を考えながら聞いたりしている。	相手に自分の考えがはっきり伝えることができたか。自分の考えを深めていくことができたか。

## 7 単元指導計画

次	時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法	指導・援助
	1	教科書の資料を読み感想を話し合いながら、自分が調べてみたいごみ問題について具体的なイメージをもつことができる。	教科書を読み、身近な環境問題について、自分の生活を振り返りながら、調べてみたい課題を考える。	教科書の資料（問題提起）から事例や筆者の主張を読み取り、自分の生活と比べて感想をまとめ、課題を見つけようとしている。	生活経験を掘り起こしながら、自分たちの生活について課題を見つけるようにする。
	2		資料を通読し、人と「もの」との付き合い方について考え、自分の生活に照らして感想をまとめる。		
1	3	自分が調べてみたいごみ問題について、課題を見つけ、発表学習・書きまとめ学習に向けて学習計画を立てることができる。	疑問に思ったことや詳しく知りたくなったことについて、グループで話し合う。 教科書P74～78を読み、学習のおおまかな流れを知る。 調べたことや自分の考えを仲間と伝え合って考えるという目的をもち、自分の課題について予想を立て、調べる方法を考えて、調査計画を立てる。	自分が調べてみたいごみ問題について課題を見つけ、進んで学習計画を立てる。  観察・ノートの記述	自分が興味をもった課題について、グループで感想を交流することで、課題に対する見通しや情報収集の方法について考えるきっかけをつかませる。 課題に入る前に、自分なりの予想や課題解決の方法が具体的にになっているか確認する。
2	4	自分の課題を解決するために、学習計画にしたがって調べ学習を行い、必要に応じて結果を整理したり、発表に必要な写真や具体物などを収集したりできる。	自分の計画にしたがって、各自で調査活動を行う。 調査で得られた結果を、必要に応じて整理しておく。	自分の課題を解決するために、計画にしたがって調べ学習を行い、結果を整理している。  観察	分かりやすい発表を行うことを念頭に、数量を表やグラフに表すよう助言する。
	5				
	6				

次	時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法	指導・援助
2	7	発表メモをもとに、必要な資料を整理して作成することができる。	発表に必要な材料や調査結果を整理して資料を作成する。	発表メモをもとに、必要な材料や調査結果を整理して、効果的に資料を作成している。  資料	資料の内容や構成について話し合い、調査結果のまとめ方や考えの書き方をとらえるようにする。
	8				
	9	発表メモをもとに、資料や写真、具体物を見せながら、適切な言葉遣いで発表する練習ができる。	発表メモをもとに、話す練習をする。また、仲間と聞き合ってよりよい話し方になるように練習する。	発表メモをもとに、ポスターや写真、具体物を提示しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話している。  発表練習	話の組み立て方や話し方、資料の提示のしかたなどについて相互評価できるようにする。
	10	発表を行い、自分の考えと照らし合わせながら仲間の発表を聞いて、自分の考えを深めることができる。	発表会を開く。聞き手は自分の課題や考えと照らし合わせ、気づいたことをメモ取りながら聞き、意見交換する。  モデル発表を通して、分かりやすい発表仕方を交流し合い、グループ発表に向けて、自分の発表の仕方を見直したり、考えを深めたりする。	自分の課題や考えと照らし合わせたり、メモを取ったりしながら、仲間の発表を聞いて、考えを深めたり、新しい意見をもったりしている。  観察・聞き取りメモ	仲間の発表を自分の課題や考えとの共通点、相違点に注意しながら聞き、考えを深めるようにする。
	11				
3	12	自分の課題やそれに対する考え、仲間の発表を聞いて考えが深まったことなどを整理して、自分の生活を見つめ直して文章を書くことができる。	発表メモや聞き取りメモを整理し、自分の生活を見つめ直して、自分なりの考えをもつ  仲間の考えを書いたメモも含めて、自分の考えを明確に表現するための文章の組み立てを考える。	自分と仲間の考えを比べ、自分の生活を見つめ直し、事実と感想・意見を区別しながら、自分の考えが明確になるように組み立てを考えて、文章に書いている。	仲間の考えを聞いて、考えが変わったり深まったりしたことを中心に文章の構成を考える。
	13		組み立てを考えたメモをもとに、事実と感想、意見を区別し、自分の生活と照らし合わせながら文章にまとめる。	作品	文末表現に注意しながら、意図が明確に伝わる文章を書くようにする。

次	時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法	指導・援助
3	1 4	自分の課題やそれに対する考え, 仲間の発表を聞いて考えが深まったことなどを整理して, 自分の生活を見つめ直して文章を書くことができる。	組み立てを考えたメモをもとに, 事実と感想, 意見を区別し, 自分の生活と照らし合わせながら文章にまとめる。		
	1 5		自分の文章を読み返し, 必要に応じて書き直したり, 仲間と読み合ってお互いのよさを伝え合ったりする。		

8 本時の展開

	主な学習活動	指導・援助	留意点
導入 課題化	<p>前時までを振り返り，学習課題を確認する。 目的・・・ごみ問題について自分の調べたことや考え，提言を仲間に伝える。 場・・・全体の場で，仲間に聞こえるように話す。 言葉遣い・丁寧な言葉遣いで話す。 話し方・・・速さ，声量，視線，抑揚，表情</p>	<p>前時学習の振り返り 相手に分かりやすく，説得力のある発表をするためには，話の組み立てを工夫したり，聞き手にといかけたりするような表現や話し方を工夫する必要があることを振り返らせる。</p>	<p>話の組み立ての工夫を生かす発表にするためには，どの場面でどの資料を指し示すか，また話し方の工夫として，視線や抑揚，速さ，大きさを意識して話すことをおさえる。</p>
<p><b>話す：聞いてくれる人に思いが伝わるように，話の組み立てや話し方を工夫して，分かりやすく発表しよう。</b></p> <p><b>聞く：発表者が調べて分かったことや考えたことを自分の考えと照らし合わせて，聞き取ろう。</b></p>			
課題追究	<p>発表会を開く。 ごみ問題発表会をしよう。 <b>発表</b> (発表者) 話の組み立ての工夫，資料の提示の仕方，声量，速さ，視線，抑揚，表情，言葉遣いなど，自分の発表を振り返られるようにするために，自分ががんばりたい目当てをはっきりさせて，発表に臨む。</p> <p>(聞き手) 発表者調査内容，考え，提言，参考になったことを箇条書きでメモしていく。 自分の考えとの共通点や相違点を考えながら，自分の考えがさらに深まるような部分については注意深く聞き，なるほどなあと感じたことについてメモに取っていく。 感想や質問が発表できるように，自分の考えを整理しておく。</p>	<p>発表の場面の設定 結論を先に出すか，順に話していくかなど，話の組み立てを意識して，メモを見ながら話す。</p> <p>発表者が何を調べたか，調べて分かったことと考えたことは何かを聞き取る。 次に，自分の考えと同じところはあるか，違うところはあるかをはっきりさせる。 そのためには，ただメモを取るだけでなく，提示された資料の観察も必要になることを押さえる。 <b>テーマが自分と同じ場合</b> 考え方が同じか違うかが分かる。 自分の考えと比べた意見発表ができる。 自分の考えと関わった意見発表ができる。</p> <p><b>テーマが自分と違う場合</b> 話し手の考え方が分かる。</p> <p>発表内容に関して，感想発表ができる。 くわしく知りたいところについて，積極的に質問ができる。</p>	<p>あらかじめ4人のモデル発表を決めておき，その中で順番に発表する方法で行う。 4人のモデルは，話の組み立て方の類型で2人ずつに分けておく。 (結果 考え，考え 結果) 1人あたりの持ち時間は10分間 3分の発表と7分の意見交換をするように事前に伝えておく。 司会は発表者が行う。</p> <p>意見交換では，疑問におもったことを質問したり，違った考えを出したりすることで，発表者も聞き手も考えを深められるようにする。</p> <p>メモはできる限り簡潔に取れるように箇条書きで書く。</p> <p>意見交換は，発表内容に関することとし，話し方についての総合評価は本時行わない。 次時の発表会において，さらに自分の考えを深めるためにメモを取り，自分の生活を見つめ直す文章を書くときの組み立てを考える際に使用する事をおさえる。</p>
評価	<p><b>意見交換</b> 課題に対する考えの違い，調査方法の違い，さらに自分の考えがより深まったことを発表し合う。</p>		
まとめ	<p>自分の考えが，はっきりして，より深まったところや，考えが変わってきたところを全体で交流し合う。</p>		

